

コーヒー×おしゃべり=FIKA

「FIKA」が気に入りました。休憩したりおしゃべりしたりするために集うことを意味するスウェーデン語／動詞だそうです。絵本のこのページにもコーヒーとお菓子と会話があり、ここに集った人々が楽しくおしゃべりしながら一休みしている様子が浮かびます。

『翻訳できない世界のことば』（エラ・フランシス・サンダース 著／イラスト、前田まゆみ 訳／描き文字、株式会社創元社発行）には、「BOKETTO」の日本語／形容詞も載っています。FIKA（フィーカ）も BOKETTO（ボケっと）も、いま私が欲していることです。

絵本の「はじめに」で、「さあ、どんな言葉との出会いがあるでしょう？」と問いかけられています。知らない国の知らない言葉、いくつも出てきます。詩を読んでいるような説明文と絵が、何とも言えない心地よい旅に連れていってくれます。「わかるわかる、そのきもち」「あるある、そういうとき」と開いたページにおけて声をかけ、絵本と会話してしまいます。

直訳するとその言葉が本来意味することとは違う意味になってしまう外国から入ってきた言葉。カタカナで日本に定着している言葉がたくさんあります。私たちの日常会話でカタカナ語をつかわずに会話しようとしたら大変で、会話が止まってしまうことでしょう。

カナダから来日した知人は、日本語は分からないけれど、日本人同士の会話から「カタカナ語」だけを聞いていると、何を話しているかだいたいわかると言っていました。

2020 年度入学の大学生は、あらゆるものがほぼオンラインとなった 1 年次を過ごしました。2021 年度、大学 2 年生になりましたが、サークルや部活動、学内行事は中止や規模縮小、オンライン開催は続いており、「友だちづくり」のきっかけがつかめないようです。「人とかわかること」「人とつながること」は、生きていくのに必要不可欠なことです。「コミュニケーション力、人と会話する力」を向上させるには練習です。練習機会を自ら作ることを、学生たちに求めたいです。

コロナ禍は、人々が集い、笑い合っておしゃべりすることができない日々となっています。もうしばらくは、オンラインで集うことにしましょう。いつかリアルで集まり、思う存分おしゃべりできる日を心待ちにしながら、そのときが来たら「FIKA しようよ」とお誘いしたいと思います。そして「SAMAR」もしたいと思います。